

2者間で包括連携協定を締結

千葉循環協／東京海上日動火災保険
五つの事項で強力を図る



業界でも珍しい協定となった



協定書を交わす杉田会長(右)

(一社)千葉県産業資源循環協会(杉田昭義会長)と東京海上日動火災保険は10月25日、千葉市内で「循環型社会形成の実現とSDGsの推進に関する包括連携協定」を締結した。「安全衛生」地域の防災・安全「GXの推進」「健康経営の実現」「サイバーセキュリティ」の五つの事項について連携を図っていく。協定は、千葉県産業

資源循環協会が取り組みを進めていくなかで、東京海上日動火災保険の持つ専門性の高いソリューション、コンサルティング力を活用しながら相互連携することで循環型社会形成の実現と業界の発展に繋がることを目的に締結した。

今後の協議で、安全衛生については自動車・火災・労働災害等の事故削減・防止のための取り組みを、防災・減災についてはBCP策定による自然災害発生時の事業早期復旧の取り組みを、GXについてはカーボンニュートラルへの取り組みを、健康経営についてはメンタルヘルスや働き方改革に関する取り組みを、サイバーセキュリティについてはサイバー攻撃への対策

をそれぞれ話し合っていく。

杉田会長は「会員企業の中には中小・零細企業も多い。個別で労働安全衛生等の教育を行っているのは難しい部分もある。(今回の)連携によって、労働災害を減らしていくことは双方にとって良いこと、業界の人材の確保にもつながっていく。また、BCP策定等を勉強させて頂くことで災害時の復旧・復興にいち早く協力することもできる。われわれの業界で困っていることについて東京海上日動火災保険の持つノウハウ等を活用させて頂く。今回の協定を通じて得られた成果を千葉県から全国に多く示したい」と述べた。

東京海上日動火災保険の江原潤千葉支店長

は「当社の経営理念と社会形成の実現」という思いが一致した。協定での取り組みはまさにSDGsの推進そのものであり、『お客様や地域社会のいざお守りする』という当社の存在意義を念頭に、より良い商品・サービスの提供を通じて産業廃棄物業界のさらなる発展に貢献したい」と話している。